

■飯田武郷 国学者。48年を費やして大著「日本書紀通釈」を完成させ、直後に没した。

いいだけさと

日本外史・1827= 信濃国高島藩士飯田小十郎武敏の子として、江戸の芝金杉の藩邸に生まれる。

鼠小僧磔・1832= 5歳：四書を素読して神童と言われ、

・1836= 9歳：

大塩平八郎乱1837=10歳：

初め儒学を服部芝山に学んだが、

阿部正弘首座1845=18歳：

のち、本居宣長の著書に心服して国学に志し、

万次郎帰国・1852=25歳：*「日本書紀」全巻の注釈を志して「日本書紀通釈」の筆を起こし、

ペリー来航・1853=26歳：

開国開港・1854=27歳：平田篤胤の没後の門人となり、また和歌を海野幸典(游翁)に学ぶが、

桜田門外変・1860=33歳：

生麦事件・1862=35歳：_この頃から尊王運動に挺身するようになり、郷里の上諏訪で同志を糾合して、さかんに活動、

8月18日政変 1863=36歳：

薩長同盟・1866=39歳：_ついに家督を長男武夫に譲り、

大政奉還・1867=40歳：*脱藩して京に上った。この間、権田直助、落合直亮らと行動をとにもする。上洛後は岩倉具視の下屋敷に
潜み運動を続けたが、戊辰戦争の時には諏訪で偽官軍として処刑された相楽総三の首級を盗み、仮葬するな
どの義侠心を示した。王政復古後、

明治維新・1868=41歳：_京都に開設された皇学所の御用掛となり、同講師に就任、

戊辰戦争終・1869=42歳：_高島藩皇学所創設とともに帰郷して、その皇学教授となった。

廃藩置県・1871=44歳：廃藩置県後は、

学問のすすめ1872=45歳：気比神宮宮司、

明治6年政変 1873=46歳：

貫前・諏訪・浅間の各神社の宮司を歴任した後、

三つの内乱・1876=49歳：東京に移り、大教院講師、

大久保暗殺・1878=51歳：太政官修史館御用掛を経て、

・1880=53歳：*東京大学教授となる間も、畢生の大著「日本書紀通釈」の執筆を続け、

明治14年政変1881=54歳：

帝国大学始・1886=59歳：東大教授を辞任後も、

初の対等条約1888=61歳：皇典講究所講師となり、

帝国憲法発布1889=62歳：

帝国議会始・1890=63歳：国学院講師を兼ね、

天津事件・1891=64歳：慶応義塾大学部教授、

郡司千島探検1893=66歳：神宮教校教授、

日清戦争始・1894=67歳：

白馬会・1896=69歳：帝大文科大学講師などにも就任し、国学・古典の教育普及に力をつくしたが、

八幡製鉄始・1897=70歳：眼疾のため職を辞した。

Bushidou・1899=72歳：*着手後40年にしてようやくその業が終了し、「日本書紀」全巻の注釈書が完成させると、

ビアノ国産化・1900=73歳：東京牛込区(新宿区)東榎町の自宅で、_病没した。

「蓬室集」(歌文集)。